

ドラッカーは「教育は変わらなければならない」と言っています。

最大の問題意識は、現在の教育や学校が、知識社会となったこの新しい時代に合っていないということです。学校の責任は、この新しい時代において生徒一人ひとりに成果をあげ、貢献し、雇用されるような道具(Tools)を身に付けさせることだとドラッカーは言います。

20世紀初頭からの75年の間に肉体労働者の時間当たりの実質所得は50倍程度に増えました。

それは生産性が上がったからです。生産性が最終的に実質所得を決めるのです。

しかし、知識労働者の生産性の向上について教育や学校はほとんど何もできていないとドラッカーは指摘し、教育や学校の役割と機能を見直すべきだと言います。

ドラッカーは知識を教えるだけでなく、成果をあげる方法を教えなければならないと言います。

彼は一貫して、知識社会と組織社会の中で貢献と成果について論じています。

ドラッカーは具体的に、自らの考えを口頭もしくは書面で簡潔かつ明確に伝える能力、他人と共に働く能力、自らの仕事や貢献やキャリアを方向づける能力、そしてそれらを統合して、組織を通して自らの大望を実現し、何かを達成し、自らの価値観を実現する能力などを、現在の教育機関は身に付けさせようとはしていないと言います。

また、ドラッカーは教育ある人間の育成を目指すべきだと言っています。

教育ある人間とは、生計を立てる力を持つと同時に充実した人生を送れる人間のことです。

知識社会における教育は、役立つ技術を教えると共に徳を身に付けさせなければならない。

これからの知識労働者には責任が伴わなければならないので道徳教育が不可欠なのです。

そういう意味でも、人文科学や一般教養といわれるものを、現実には照らして意味あるものにしていかなければなりません。

せつかくの意味ある歴史や偉大な伝統が単なるデータとしてしか提供されていないのが現実です。

また、ドラッカーはこれからは、学びや教え方が一変すると言います。

歴史的に言えば印刷技術が生まれ教科書が発明されたことにより学び方は一変しました。

これからはコンピューターがその役割を果たしていくとドラッカーは見ています。

では、これからの教師の役割は何か？

その答えのヒントは、学ぶことと教えることが違うところにあります。

学んではじめて身に付くことと、教えられてはじめて身に付くことがあります。

教科の内容は自分で学べばいいことです。

一方、教えてもらわなければならないのは、価値観であり、洞察力であり、物事の意味であるとドラッカーは言います。

特に価値観抜きの教育制度など過去に一度も存在したことがないと言います。

そして、さらに大切な教育の役目は、生徒の強みを把握し、その強みに焦点を当て、生徒を動機づけ、指示し、励まし、範を示し、何かを達成させるように指導することだとドラッカーは言います。

つまり、学校は「生徒たち」ではなく、「一人ひとり」を教えるようになるべきなのです。

人が学ぶのは教科の内容であり、人が教えるのは人であるとドラッカーは言うのです。

知識社会は変化が常態となる社会ですから、継続学習や生涯学習が不可欠です。

では継続学習の能力はどのように学習すればよいのでしょうか？

必要なことは、強みに焦点を当て何事かを成し遂げさせることです。

そして、そのためには学習の規律が必要だと言います。

ドラッカーが言わんとするところは、何かを達成するには訓練や鍛錬が必要であるということです。

又、知識社会では、継続学習・生涯学習が必要ですから、幅広い年齢層を受け入れるオープン化が必要になってくるとドラッカーは言います。

これからの知識社会における教育では、学校と職場の境界がなくなっていくと言います。

知識の成果物を生み出す方法論を学ぶには実務が必要だからです。

高度な知識を使って成果を上げなければならない医学の分野を見ればそのことが明らかです。

現場の実務経験がなければ医学理論は成果に結びつきません。

ドイツのマイスター制度のような学習と実務を並行して行う教育制度が工学の分野では大きな成果をあげています。

学校教育における最大の変化とは、学校が成果を約束しなければならなくなるということであり、学校は成果に責任を負わなければならなくなるとドラッカーは言うのです。

<経営のヒント>

日本の大学はこのままでいいのか？

大学の教育方法が、専門家になるための手法が基盤となっていることが問題です。

専門家とは、調査し、分析し、仮説立案し、客観的に論理分析する手法です。

ある部門の専門家になるのであれば、各種専門学校に行くことがベストです。

改めて、大学に行く目的、求める成果が改めて問われています。

教師の役割もコンピューターによって様変わりしてきています。

進学塾では、人気講師の講座をインターネット経由で受講します。

自分の都合のいい時間に勉強できるから効率的でもあります。

つまらない講師をライブで受講するより、一流の講師の講座を映像で見る方が効果的と感じます。

知識は学ぶ方法はいろいろと進化してきています。

しかし、判断基準である価値観や物事の意味や意義・価値は人を通してでないと学べません。

また、組織の中で成果をあげる方法は知識の習得だけでは絶対に無理です。

人間関係の中で、経験し、体験する中で体系的に継続学習する必要があります。

組織の中で効果的、そして効率的に成果をあげる仕組みが必要です。

WS1 継続的に結果、成果をあげ続けられる組織には、どのような要件があるのか？

WS2 成果を挙げ続ける組織の特徴では、具体的行動として、どのようなことをしているのか？

WS3 成果をあげるためにツールや武器、手段方法はどのようにしているのか？

—————ワールドカフェという対話から創造性を発揮するファシリテーションツールがあります。